

国際保健医療福祉学分野

論文

A 欧文

A-a

- 1 . Hande V, Orita M, Matsunaga H, Kashiwazaki Y, Xiao X, Taira Y, Takamura N: Importance of improving radiation risk perception during reconstruction of Futaba town at 11 years after lifting of Fukushima nuclear accident evacuation orders. *Radioprotection* 58(4): 261-269,2023. doi: 10.1051/radiopro/2023026. (IF: 1.4)
- 2 . Liu M, Taira Y, Matsuo M, Orita M, Matsunaga H, Kashiwazaki Y, Xiao X, Takamura N: Temporal variation in environmental radioactivity and radiation exposure doses in the restricted areas around the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. *Scientific Reports* 13(-): 22459,2023. doi: 10.1038/s41598-023-49821-8. (IF: 3.8)
- 3 . Hande V, Orita M, Matsunaga H, Kashiwazaki Y, Xiao X, Schneider T, Lochard J, Taira Y, Takamura N: Thoughts, perceptions and concerns of coastal residents regarding the discharge of tritium-containing treated water from the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant into the Pacific Ocean. *BMC Public Health* 23(1): 2436,2023. doi: 10.1186/s12889-023-17349-1. (IF: 3.5)
- 4 . Matsunaga H, Orita M, Xiao X, Kashiwazaki Y, Taira Y, Takamura N: Latest Topics of Interest on Radiation Risk Communication: A Decade After Japan's Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Acciden. *Disaster Medicine and Public Health Preparedness* 17(-): e531,2023. doi: 10.1017/dmp.2023.194. (IF: 2.7)
- 5 . Matsunaga H, Xu X, Orita M, Kashiwazaki Y, Taira Y, Takamura N: Twelve years on: An evaluation of mental health status in Tomioka Town, located within 20 km of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station. *Journal of radiological protection* 43(2): 24501,2023. doi: 10.1088/1361-6498/acce44. (IF: 1.4)
- 6 . Thu Zar W, Matsunaga H, Xiao X, Lochard J, Orita M, Takamura N: An analysis of the desire to make radiation measurements and to dialogue with experts among the residents of Tomioka town, Fukushima Prefecture: about the implementation of the co-expertise process. *Radioprotection* 58(2): 79-89,2023. doi: 10.1051/radiopro/2022035. (IF: 1.4)
- 7 . Hande V, Orita M, Matsunaga H, Kashiwazaki Y, Taira Y, Takamura N: Changes in the intention to return and the related risk perception among residents and evacuees of Tomioka town 11 years after the Fukushima nuclear accident. *Disaster Medicine and Public Health Preparedness* 17(-): e386,2023. doi: doi:10.1017/dmp.2023.58. (IF: 2.7)
- 8 . Xiao X, Matsunaga H, Orita M, Kashiwazaki Y, Taira Y, Win TZ, Lochard J, Schneider T, Takamura N: Assessment of the radiation risk perceptions and interest in tritium water among the returnee and evacuee in Tomioka Town within 20 km from the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 20(3): 2690,2023. doi: 10.3390/ijerph20032690.
- 9 . Hande V, Orita M, Matsunaga H, Kashiwazaki Y, Taira Y, Takamura N: Comparison of quality of life between elderly and non-elderly adult residents in Okuma town, Japan, in a post-disaster setting. *PLoS One* 18(2): e0281678,2023. doi: 10.1371/journal.pone.0281678. (IF: 2.9)
- 10 . Matsunaga H, Xiao X, Hande V, Orita M, Y. Kashiwazaki Y, Taira Y, Takamura N: Frequency of visits to Tomioka town and related factors among evacuees more than a decade after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. *Journal of Radiation Research* 64(3): 530-537,2023. doi: 10.1093/jrr/rrad018. (IF: 1.9)
- 11 . Takamura N, Orita M, Matsunaga H, Taira Y: Eleven years of community efforts for the recovery from the nuclear disaster. *Environmental Advances* 11(-): 100330,2023. doi: 10.1016/j.envadv.2022.100330. (IF: 5.6)

A-b

- 1 . Palmer J, Ahmed S, Allen S, Amra A, Andrew R, Chowdhury AB, Bellizzi S, Das S, de Almeida L, Andrade PdC, Brandão LdS, Sadutshang TD, Ekawati L, Costa IMF, Gan P, Garcia G, Kumar A, Lacerda M, Le XP, Liu J, Manerkar S, d'Univille AM, Melo J, Mkosi A, Ohanesian A, Pieter Y, Preston N, Proujansky AP, Rico G, Swaka AS, Sidhu A, Siquiera A, Takamura N, Trenchard T, van Moll D, Villasana D, Waguih A, Werning I, Wu YH, Min TY, Zellweger M: Highlights 2023: capturing diverse health stories. *Lancet* 402(10420): 2396-2476,2023. doi: 10.1016/S0140-6736(23)02810-6. (IF: 98.4)
- 2 . Taira Y, Matsuo M, Orita M, Matsunaga H, Kashiwazaki Y, Xiao X, Hirao S, Takamura N: Regional Case Studies: Environmental Radioactivity Levels and Estimated Radiation Exposure Doses of Residents and Workers in Areas Affected by the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident. *Radiation Environment and Medicine* 12(1): 37-52,2023. doi: 10.51083/radiatenvironmed.12.1_37.

学会発表数

A-a	A-b		B-a	B-b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
0	3	0	0	0	13

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
高村 昇・教授	東日本大震災・原子力災害伝承館館長	公益財団法人 福島イノベーションコト構想推進機構
高村 昇・教授	疫学部 顧問	公益財団法人 放射線影響研究所
高村 昇・教授	共創アドバイザー	公益財団法人 環境科学技術研究所
高村 昇・教授	支援センター運営委員会委員	公益財団法人 原子力安全研究協会
高村 昇・教授	臨床研究部顧問	公益財団法人 放射線影響研究所
高村 昇・教授	長崎市国民保護協議会委員	長崎県長崎市
高村 昇・教授	客員研究員	広島大学原爆放射線医科学研究所
高村 昇・教授	福島県「県民健康調査」検討委員会委員	福島県
高村 昇・教授	福島県 放射線と健康アドバイザーグループアドバイザー	福島県
高村 昇・教授	中間貯蔵所去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会委員	環境省
高村 昇・教授	雲南市原子力安全顧問	島根県雲南市
高村 昇・教授	双葉町放射線量等検証委員会委員	福島県双葉町
高村 昇・教授	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会運営部会委員	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会
高村 昇・教授	有識者委員会委員	一般社団法人 日本原子力文化財団
高村 昇・教授	野生鳥獣肉にかかる出荷制限解除等検討会委員	福島県
高村 昇・教授	放射線副読本改定協力者	文部科学省
高村 昇・教授	科学研究費委員会専門委員（2段階書面審査審査委員）	独立行政法人 日本学術振興会

その他

非常勤講師

氏名・職	職（担当科目）	関係機関名
高村 昇・教授	客員教授・非常勤講師（福島原発事故と災害復興）	学校法人 昌平黌（東日本国際大学）

新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
高村 昇・教授	東日本大震災・原子力災害伝承館の2022年度の来館者が、開館以降最多の8万人を上回った。	福島民友	2023年4月6日	東日本大震災・原子力災害伝承館の2022年度の来館者が、2020年9月の開館以降最多の8万119人となった。教育旅行などで県内外の人々に被災地の現状を見てもらう「ホープツーリズム」が浸透したことや、SNSを使ったPR活動を積極的に展開したこと、4人の常任研究員が着任したことなどで震災と原子力災害に関する研究活動の発信が進んだことなどが増加の要因とみられる。
高村 昇・教授	4月19日、東京都で開催された第56回原産年次大会において、モデレーターとして講演及び意見交換に参加した。	原子力産業新聞	2023年4月23日	「福島復興のこれまでとこれから」について講演を行い、「震災から12年が経過した。今回は大熊町の今について皆さんと意見を共有する機会としたい。」と述べた。その後、大熊町長の吉田淳氏と大熊町商工会会長の蜂須賀禮子氏の意見交換に進行として参加した。
高村 昇・教授	5月13日に長崎市で開催された先進7か国（G7）保健相会合において、各国代表へ長崎大学の展示ブースの説明を行った。	長崎新聞	2023年5月14日	熱帯医学研究所や感染症研究施設BSL4、原爆後障害研究所を紹介するパネルを展示し、被爆から立ち直った長崎の経験を原発事故で被害を受けた福島の復興に生かしていることなどを説明。「壊滅的な原爆の被害から復興した長崎は、ロシアのウクライナ侵攻で海外からも注目されている。海外の方に取り組みを発信してきた意義は大きい」と話した。
高村 昇・教授	6月9日、東日本大震災・原子力災害伝承館の来館者が20万人を突破した。	福島民報	2023年6月10日	東日本大震災・原子力災害伝承館の来館者が20万人を突破した。見込みより1年3カ月ほど早い、2年9カ月での達成となった。「今後も多くの人に、福島の今の姿を知ってもらえるよう努力する」と述べた。
高村 昇・教授	6月9日、東日本大震災・原子力災害伝承館の来館者が20万人を突破した。	福島民友	2023年6月10日	東日本大震災・原子力災害伝承館の来館者が20万人を突破した。「複合災害からの歩み、福島の今を知ってもらえるよう今後も努力していく」と述べた。
高村 昇・教授	6月14日、福島県立いわき総合高等学校で『ふくしまイノベ未来講座』が実施され、講話を行った。	福島民友	2023年6月20日	福島県立いわき総合高等学校の2年生約190人に対し、「放射線被ばくと健康影響」をテーマに講話した。身の回りの放射線や原子力災害、甲状腺に関する基礎的な情報などを伝えた。

高村 昇・教授	7月21日、カザフスタンの医療従事者5人とともに、鈴木史朗長崎市長を表敬訪問した。	長崎新聞	2023年7月22日	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIMU）の事業である、被爆者医療研修を受けるカザフスタン医療従事者5人とともに、鈴木史朗長崎市長を表敬訪問した。 研修は、被爆地長崎が蓄積した被爆者医療に関する技術支援や情報共有などを目的としており、期間中は長崎大学医学部や同原爆後障害医療研究所などで学ぶ。
高村 昇・教授	7月21日、カザフスタンの医療従事者5人とともに、大石賢吾長崎県知事を表敬訪問した。	長崎新聞	2023年8月3日	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIMU）の事業である、被爆者医療研修を受けるカザフスタン医療従事者5人とともに、大石賢吾長崎県知事を表敬訪問した。
高村 昇・教授	9月6日、長崎大学福島未来創造支援研究センターが開催した「夏季国内集中セミナー」において、講演を行った。	福島民友	2023年9月7日	放射線被ばくと健康影響をテーマに講演し、福島第一原発事故をめぐる、住民避難や食品管理などで被ばく線量の低減化が図られたことを説明した。 「放射線被ばくの遺伝的な影響はないことを理解し、周りの人にも伝えてほしい」と強調した。
高村 昇・教授	9月21日、福島県双葉郡双葉町で長崎大学が主催する「ウクライナ学生復興学セミナー」において、講義を行った。	福島民友	2023年9月22日	セミナーに参加した東日本国際大のウクライナ人留学生に対し、英語で講義を行った。チェルノブイリ原発事故と福島第一原発事故との比較や事故当時の双葉郡内各町村の状況、長崎大学が川内村で進める復興支援の取り組みなどを説明しながら、「福島の現状を理解するためには、放射線による健康への影響を研究することが重要だ」と述べた。
高村 昇・教授	11月3日、福島県の双葉町産業交流センターでワークショップを開催した。	福島民報	2023年11月5日	国際放射線防護委員会（ICPR）、経済協力開発機構原子力機関（OECD/NEA）の関係者とともに、中国・インドなどからの留学生9人に対し、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの福島県復興に向けた取り組みや現状などを紹介した。
高村 昇・教授 折田真紀子・准教授	12月1日、ホテルニュー長崎で開催された「チャレンジふくしまフォーラムin長崎」にパネリストとして参加した。	読売新聞	2023年12月2日	福島県川内村の遠藤幸雄村長や長崎市の田上富久前市長とともに「長崎と福島の絆」をテーマにしたパネル討議を行い、震災後の福島と長崎のつながりについて意見を交わした。 高村教授は、福島と長崎を何度も行き来したことに触れ、「食べ物のおいしさや人の温かさなど、福島のいいところをたくさん知った。ぜひ皆さんにも足を運んでもらいたい」と呼びかけた。

高村 昇・教授 折田真紀子・准教授	12月1日、ホテルニュー長崎で開催された「チャレンジふくしまフォーラムin長崎」にパネリストとして参加した。	長崎新聞	2023年12月3日	福島県川内村の遠藤幸雄村長や長崎市の田上富久前市長とともに「長崎と福島の絆」をテーマにしたパネルディスカッションを行い、当時の状況や福島の魅力について語った。
高村 昇・教授 折田真紀子・准教授	12月1日、ホテルニュー長崎で開催された「チャレンジふくしまフォーラムin長崎」にパネリストとして参加した。	読売新聞	2024年1月27日	福島県川内村の遠藤幸雄村長や長崎市の田上富久前市長とともに「長崎と福島の絆」をテーマにしたパネルディスカッションを行い、当時の状況や復興に向けた取り組み、福島の魅力について語った。
高村 昇・教授	1月31日、東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れた長崎県の修学旅行生（高校生）を案内した。	福島民友	2024年2月2日	広島と長崎で「二重被爆」した曾祖父の体験を継承し、語り部として活動している長崎市の高校2年生 原田晋之介さんを含む長崎県の修学旅行生に対し、展示の説明などを行った。
高村 昇・教授	2月15日に長崎市で開かれた国際シンポジウムでウクライナ国立放射線医学研究センターのドミトリー・バジーカ所長が行った講演内容について、意見を述べた。	長崎新聞	2024年2月24日	「もし放射線災害が起きた場合は日本、そして長崎大として協力できる態勢が必要。ただ戦時下では支援が制限を受ける可能性があり、専門家育成のためにウクライナの医療関係者を招きたい」と話す一方、「（現在は）軍医として従事している人が多い上に一定年齢の男性は原則、国外に出られないようだ」と、もどかしさにもじませた。
高村 昇・教授	東日本大震災・原子力災害伝承館が2024年9月頃からフランス・モンベリアールでパネル展示を行う。	福島民友	2024年3月5日	フランス・モンベリアールで東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の経験と教訓を広く伝えるパネル展示を行う。伝承館が海外で展示を行うのは今回が初めてであり、高村教授のつながりで初めての海外展示が実現する見通しとなった。
高村 昇・教授	3月11日、福島県の「3.11メモリアルイベント」が東日本大震災・原子力災害伝承館で開かれ、俳優の横田龍儀氏と対談した。	福島民友	2024年3月12日	福島県の「3.11メモリアルイベント」が東日本大震災・原子力災害伝承館で開かれ、俳優の横田龍儀氏と「家族との絆・支え合うこと」をテーマに対談した。

高村 昇・教授	3月11日、福島県の「3.11メモリアルイベント」が東日本大震災・原子力災害伝承館で開かれ、俳優の横田龍儀氏と対談した。	福島民報	2024年3月13日	福島県の「3.11メモリアルイベント」が東日本大震災・原子力災害伝承館で開かれ、俳優の横田龍儀氏と「家族との絆・支え合うこと」をテーマに対談した。 「若い人が伝えていくことが大切。記憶はあやふやになりかねず、収集していくことが大事だ。幅広い人の当時の記憶が将来の防災減災につながる」と継承の意義を説いた。
高村 昇・教授	3月12日、福島県の大葉町産業交流センター（F-BICC）で、福島の復興推進拠点活動報告会を開催した。	長崎新聞	2024年3月13日	東日本大震災の被災地である福島県の川内、富岡、大熊、双葉4町村に設置した復興推進拠点の活動報告会を双葉町産業交流センター（F-BICC）で開いた。 長崎大学のほか、福島県内の大学や企業の関係者8人による教育や地域復興などの取り組みについての報告や、大熊町長らによる座談会が行われ、現地とオンライン合わせて約100人が参加した。
高村 昇・教授	東日本大震災・原子力災害伝承館が2024年9月から1年間、フランスのモンペリエール市で海外初の出張展示を行う。	福島民報	2024年3月13日	震災と東京電力福島第一原発事故の発生当初から13年間の復興の歩みをパネルで紹介する。 期間中は、語り部とともに渡仏し、科学的事実に基づく福島県の正確な情報や体験を踏まえた教訓を発信する。
高村 昇・教授	3月16日から、東日本大震災・原子力災害伝承館で「盆踊りの継承パネル展」が始まった。	福島民友	2024年3月17日	展示では、東京電力福島第一原発事故で一度は存続が危ぶまれた双葉郡8町村や飯館村も「盆踊り」がどのように継承されているかをまとめた。震災前の踊りの様子に加え、現在の継承がどのように行われているかなどについて、継承している人の思いも交えて分かりやすく解説している。

学術賞受賞

氏名・職	賞の名称	授与機関名	授賞理由、研究内容等
肖 旭・助教	長崎公衆衛生懇話会優秀論文賞	長崎公衆衛生懇話会	Association of FTO genotype with obesity and bone health among communitydwelling adults ; Goto Island study on bone health.